

平成 18 年 2 月 10 日

各 位

会 社 名 新日鉱ホールディングス株式会社  
 代表者名 代表取締役社長 清水康行  
 コード番号 5016  
 問合せ先 総務グループ(IR・広報担当)  
 シニアオフィサー - 八牧暢行  
 電 話 03-5573-5123

平成 18 年 3 月期連結業績予想および個別業績予想の修正について

最近の業績の動向等を踏まえ、平成 17 年 11 月 10 日に公表した平成 18 年 3 月期連結業績予想および個別業績予想を下記のとおり修正します。

記

1. 平成 18 年 3 月期連結業績予想数値の修正(平成 17 年 4 月 1 日～平成 18 年 3 月 31 日)

(単位:百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A) (平成 17 年 11 月 10 日発表)	2,870,000	145,000	75,000
今回修正予想(B)	3,000,000	173,000	86,000
増減額(B - A)	(○)130,000	(○)28,000	(○)11,000
増 減 率	4.5%	19.3%	14.7%

<修正の理由>

平成 18 年 3 月期連結業績の売上高は、原油情勢を反映した石油製品価格および金属価格の上昇を主因として、増収となる見込みであります。連結経常利益は、原油価格上昇による在庫評価益の増、銅価の上昇等に伴う増益等を主因として、(○)280 億円増加の 1,730 億円となる見込みであります。連結当期純利益は、環境対策工事引当金等の特別損失の増はあるものの、経常利益の増益等により、(○)110 億円増加の 860 億円となる見込みであります。

<セグメント別経常利益内訳(平成 18 年 3 月期連結業績予想)>

(単位:億円)

		前回	今回	差異	経常利益差異説明	16 年度実績
石 油 セグメント	売上高	23,200	24,000	(○)800	石化損益の悪化等による減益要因はあるが、在庫評価益の増により増益	19,864
	経常利益	730	910	(○)180		878
資源・金属 セグメント	売上高	4,190	4,650	(○)460	銅価上昇、為替円安、持分法適用会社の増益等により増益	3,787
	経常利益	580	645	(○)65		464
電子材料 セグメント	売上高	1,000	1,030	(○)30	圧延銅箔・半導体用ターゲット材の増販、在庫評価益の増等により増益	890
	経常利益	55	80	(○)25		77
金属加工 セグメント	売上高	520	540	(○)20	圧延銅箔等のIT関連向け製品の増販等により増益	543
	経常利益	55	65	(○)10		86
そ の 他 セグメント	売上高	240	240	-		407
	経常利益	30	30	-		25
消 去	売上高	450	460	(×)10		465
	経常利益	1,450	1,730	(○)280		1,481
計	売上高	28,700	30,000	(○)1,300		25,025
	経常利益	1,450	1,730	(○)280		1,481

<参考> 前提条件(平成 18 年 3 月期連結業績予想)

		前回	今回	差異	16 年度実績
( 共通 )	為替レート(円 / \$)	110	113	(+)3	108
石油 セグメント	原油FOB(\$ / BBL) *	50.8	53.3	(+)2.5	36.6
	パラキレン市況(\$ / t)	970	966	(-)4	889
資源・金属 セグメント	銅価(¢ / lb)	161	180	(+)19	136
	電気銅販売量(千t / 期)	592	590	(-) 2	607
電子材料 セグメント	電解銅箔販売量(t / 月)	2,112	2,068	(-)44	2,350
	圧延銅箔販売量 (千m / 月)	3,361	3,677	(+) 316	3,393
	ITOターゲット販売量 (t / 月)	27.1	26.5	(-)0.6	19.7
金属加工 セグメント	伸銅品生産品販売量 (千t / 期)	36	37	(+)1	35
	特殊鋼生産品販売量 (千t / 期)	5	5	-	10
	高機能材比率(%)	41%	43%	(+)2%	30%

\* 原油FOBは、ドバイスポットベース

2. 平成 18 年 3 月期個別業績予想数値の修正(平成 17 年 4 月 1 日 ~ 平成 18 年 3 月 31 日)

(単位:百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A) (平成 17 年 11 月 10 日発表)	16,500	12,500	16,000
今回修正予想(B)	22,000	18,000	24,000
増減額(B - A)	(○)5,500	(○)5,500	(○)8,000
増減率	33.3%	44.0%	50.0%

<修正の理由>

平成 18 年 3 月期個別業績は、売上高、経常利益、当期純利益とも子会社からの配当金収入の増等により、増収増益となる見込みであります。

以 上